

1月 11日 ニッポンの正月遊びを体験

たこ揚げや羽根つきなどを体験する「七日正月」のイベントが弥生のムラで行われ、多くの家族連れでにぎわいました。参加者には、七草がゆや石がま



▲豊後万歳も披露

ピザがふるまわれ、一年の健康を祈りながら食べていました。

また、この日は安岐中学校との交流のために来日していた韓国彦州(オンジュ)中学校の生徒も訪れ、日本の正月行事を楽しんでいました。



▲羽子板に絵を描く子どもたち

1月 18日 郷土の偉人偲ぶ向陽祭



安岐町山口で育ち戦後の平和外交に貢献した、重光葵<sup>まもる</sup>外務大臣の遺徳を偲ぶ「第58回向陽祭」が南安岐地区公民館で開催されました。

祭典につづき、元高校教諭の小玉洋美さんが重光氏について講演。芸能発表会も行われ、子どもたちの演劇や高齢者の舞踊に、多数の地区住民が拍手を送りました。



▲劇「ねずみの嫁入り」を発表した安岐中央保育園の園児

1月 5日 新年最初のチャレンジは書き初め



▲今年の題材は杵築市がテーマ

新春恒例の「第9回国東半島書き初め大会」が武蔵中央公民館などで開催され、市内外の小中学生約160人が参加しました。張りつめた空気の中、子どもたちは初春の思いを込め、真剣な表情で筆や鉛筆を走らせていました。

なお、入賞作品は次の場所で展示されます。

(2月中旬以降の予定)

- 武蔵中央公民館 2月14日～16日
- 梅園の里 2月20日～3月10日
- ホテルベイグランド国東 4月8日～5月10日

1月 12日 にぎわい取り戻せからす市と軽トラ市同時開催



▲久々に活気が戻った横町通り

安岐町の西小川商店街で、江戸時代から続いている「からす市」が開催されました。近年は訪れる人も少なくなり、行事の存続に危機感を覚えた「西安岐お祭り保存会」が、昔のにぎわいを復活させようと、これまでの露店業者に加え、地元商工会の軽トラ市を同じ通りで初めて開催。当日は天気にも恵まれ、会場の横町通りは、朝から家族連れでにぎわいました。

10日には安岐川の河川敷で「どんど焼き」が行われ、来場者は一年の無病息災を祈りました。



12月31日～1月1日 幻想的なムードの中で年越し

大晦日から元旦にかけ、武蔵町内田の白石神社(通称：龍神様)で「龍神年越し竹明かり」が行われました。地元の地域づくりグループ「龍神プロジェクト」のみなさんが手作りした、約1000本の竹灯籠が境内と参道に並べられ、幻想的な雰囲気の中で新年を迎えました。



また、甘酒の振る舞いもあり、訪れた初詣客の体を温めました。



▲天気も回復し、多くの参拝者が訪れた

1月 2日 知恵が授かりますように！

国東町の文殊仙寺で「知恵がゆ」のふるまいがありました。秋吉文隆住職が育てた米を、奥の院から湧き出る水を使って炊き上げ、煮込んだシイタケをのせたおかゆは、やさしい味がしました。

文殊仙寺によると、知恵がゆは毎年1月2日のみの開催で、毎年400人分を準備しているそうです。



▲願いを込めて知恵がゆをいただく参拝者

12月 23日 みんなんかんでクリスマスコンサート



▲ジュニアとは思えないすばらしい演奏

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラによる演奏会が、国見生涯学習センターみんなんかんで開催されました。メンバーは県内在住の小学校3年生から20歳で構成されており、なじみのあるクラシックやクリスマス曲、「アナと雪の女王」メドレーなどを演奏しました。

また、楽器体験コーナーもあり、子どもから大人まで楽しいひとときを過ごしました。

1月 1日 年が明けたら・・・雪になった

国東町の重藤海岸で、元旦恒例の「あさひ初日の出観賞会」が行われました。地元の地域おこしグループ「おんどが旭日SUN」が主催しているイベントで、来場者のみなさんは特製の「あさひ鍋」を食べながら日の出を待ちました。



▲あさひ鍋

しかし、雪が舞い始め、残念ながら海から昇る初日の出を見ることはできませんでした。



▲観賞会に訪れたみなさんには、宝くじが配られた